

# 第5学年 図画工作科学習指導案

平成30年12月19日(水) 第3教時  
 第5学年1組 男子17名 女子8名  
 授業者 船橋 昂己

## 1. 題材名 「世界の芸術作品に触れよう～アートカルタで楽しもう～」 (鑑賞)

## 2. 授業づくりにあたって

(1) 図画工作科の目標・第5・6学年における目標・本単元の目標・育成すべき資質能力を踏まえた単元の評価規準

図画工作科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおりに育成することを目指す		
	図画工作科の見方・考		
	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと。		
	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等など (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送る)
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や連想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を養う。	
第五学年の目標	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や考え方を深めたりすることができるようにする。	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。
本単元の目標	絵をよく見て、見つけたり感じたりしたことを話し合う活動を通して、自分や友だちの見方、感じ方の違いに気づき、自分の思いをもって作品のよさや美しさを味わう。		
	・作品鑑賞から、形(線や面)、色彩、構図、テクスチャーについての特徴を捉えている。 ・形(線や面)、色彩、構図、テクスチャーから、作品に対する自分のイメージをもつことができる。	・形(線や面)、色彩、構図、テクスチャーから、作品に対する自分のイメージについて考えている。 ・友だちの意見を参考にしたり、文章に表したりしながら、作品に対する自分らしい見方や考え方、感じ方を深めている。	・自分たちの作品、親しみのある美術作品などのよさや美しさを自分の思いをもって味わおうとしている。 ・世界の美術作品に対して、自分らしい見方や考え方、感じ方で味わおうとしている。
	評価1	評価2	評価3

### (2) 題材について 学習指導要領との関連

本題材は、第5学年及び第6学年の内容B鑑賞(1)に対応したものである。ここでは絵をよく見て、絵について友だちと話し合い、児童自身が試行錯誤することで、自分や友だちの見方や考え方、発想のおもしろさや楽しさについて気付くことができると思う。

### B鑑賞—(1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分たちの作品、我が国の諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。
- イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴をとらえること。

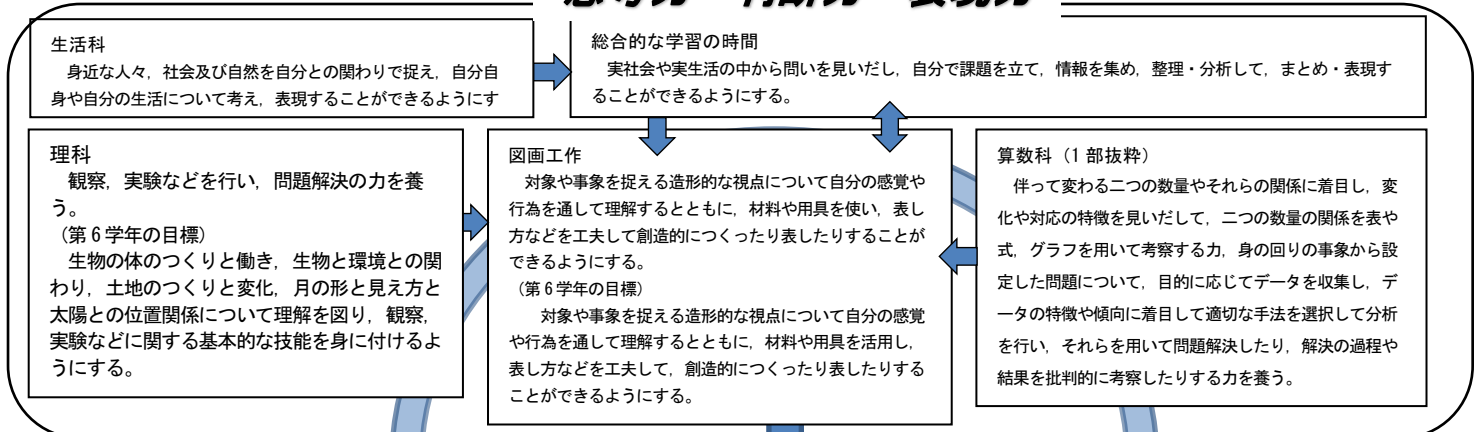
#### 【共通事項】

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 色や形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

(3) 指導の工夫 ～ 資質・能力のつながりと具体的な手立て

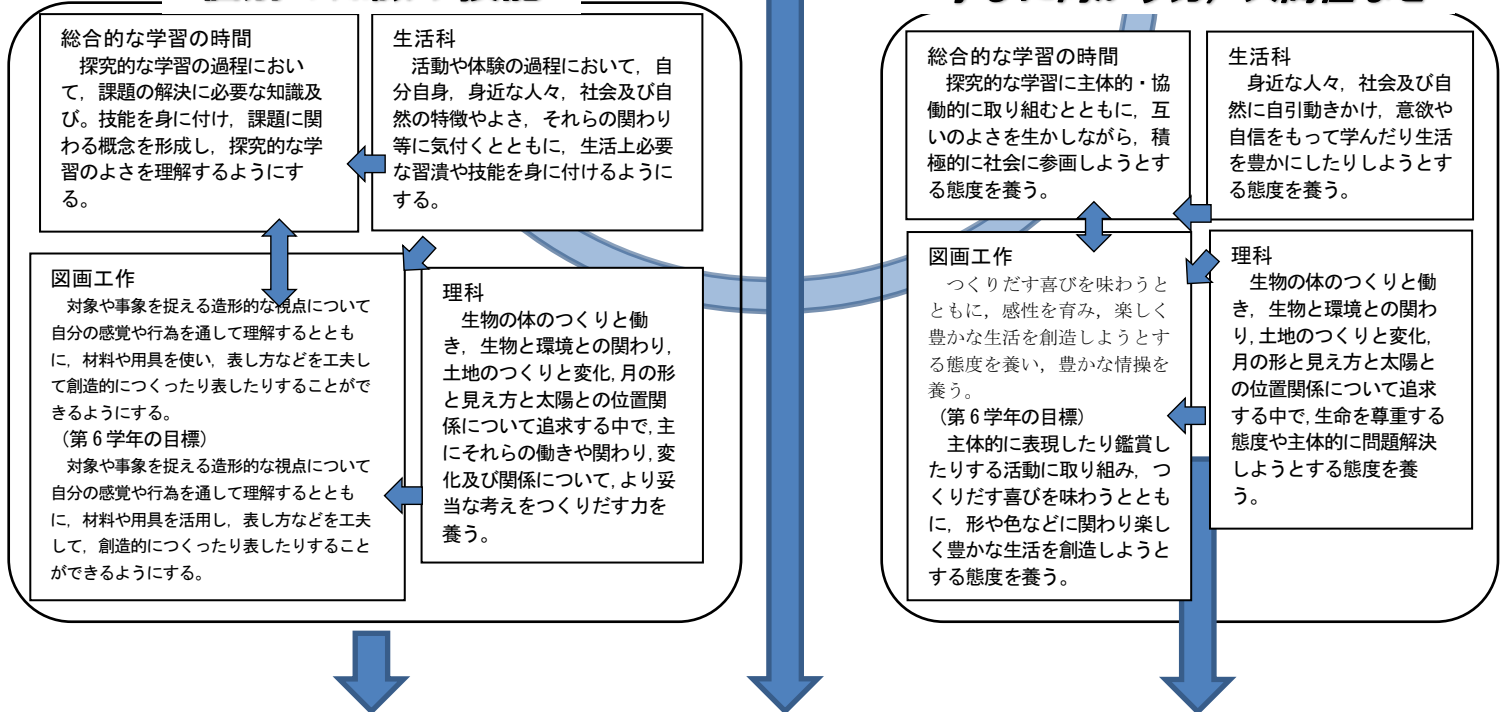
① 資質・能力のつながり

**思考力・判断力・表現力**



**個別の知識や技能**

**学びに向かう力、人間性など**



**図画工作科において育成を目指す資質・能力**

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動に応じた材料や用具について理解する。</li> <li>○活動に応じた材料や用具を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりして、工夫してつくれるようにする</li> <li>○表現方法に応じて、材料や用具を活用できるようにする。</li> <li>○表現に適した用具や材料を活用し、総合的に生かしたり、表現方法を組み合わせたりして、工夫して表せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く力を養う。</li> <li>○活動の構成や周囲との様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考える力を養う。</li> <li>○感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つめる力を養う。</li> <li>○形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題にあらわすかについて考える力を養う。</li> <li>○自分たちの作品や身の回りの美術作品、生活の中の造形的なよさや美しさなどについて感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方や感じ方を深める力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な対称や事象を心に感じ取る感性を養う。</li> <li>○感性を働かせながら味わったり、つくりだすことに喜んだりする態度を養う。</li> <li>○造形的な創造活動に主体的に取り組む態度を養う。</li> <li>○形や色などにより、生活を楽しく心豊かにする態度を養う。</li> <li>○形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度を養う。</li> <li>○美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操を養う。</li> </ul>



## 本単元における「資質・能力」を身に付けた子どもの姿（例）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力，人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・形（線や面），色彩，構図，テクスチャーについて理解している。</li> <li>・形（線や面），色彩，構図，テクスチャーに着目し，作品の良さや美しさを感じ取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に対する自分のイメージを，形（線や面），色彩，構図，テクスチャーなど具体的視点を基に考え，表現している。</li> <li>・ワークシートを活用して表現したり，友達の意見を参考にしたりしながら，作品に対する自分の見方や考え方，感じ方を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の芸術作品に対して，お互いに交流することで，感動したり，喜び合ったりしている。</li> <li>・世界の美術作品の良さや美しさを味わおうとしている。</li> <li>・アートカードを通じて世界の美術作品に親しみ，現物が見られる美術館への興味を高めている。</li> </ul>

### ②「主体的・対話的で深い学び」を保障する手立て

○手立て1

#### 題材の価値や期待を高める活動や教材を工夫する

学習の初めに行ったアンケート結果から，クラスの8割の子どもたちが美術館へ行った経験がなく，芸術作品を鑑賞する機会は少ない。しかし，美術館への興味は高く，クラスの大半が「機会があったら行ってみたい」と感じていたので，児童たちが身近に芸術作品を感じられるようアートカードを用意し，楽しく鑑賞できるようにした。また同アンケート結果から，クラスの8割が「鑑賞」を好きだと回答しており，その中でも，工作の鑑賞より友達の絵や版画を鑑賞することが好きだと感じていることがわかった。そこで，子どもたちの「鑑賞」に対する思いをさらに高め，本主題に対して必要感や必然性を感じながら，主体的に主題に向き合うことができるよう，「アートかるた作り」を主活動に設定した。→図工・美術サークルの重点「五感に訴える教材の開発やその教材を生かした授業実践」

○手立て2

#### 必要感のある対話的な学びを促す

作品に対する自分の見方や考え方，感じ方を深められるように，作品に対する自分の見方や考え方，感じ方を表現する場，たくさんの他者の考え方に触れ，表現することができる場を設定する。また，「アートかるた」ゲームを「対話的な学びの場」として位置づけ，友達とたくさん交流し，楽しみながら美術作品に対する自分の考えを深められるようにする。

○手立て3

#### 全員が主体的に授業に参加できるよう，ICTを活用する

手立て1でも述べたように，クラス全体として，美術館への興味は高く，「機会があったら行ってみたい」と感じていたので，授業の導入で，iPadの地図アプリを活用し，美術館を模擬体験することで，美術館，芸術作品への興味・関心をより高められるようにする。また，実物投影機などを用いることで，全体交流を効果的に進められるようにする。このようにICTを活用することで，子どもたちは主体的に題材に向かうことができ，自分の作品に対して深く考えることができるようにしたい。

### （4）評価の観点（評価規準）

- 評価1 形（線や面），色彩，構図，テクスチャーについて理解している。また，形（線や面），色彩，構図，テクスチャーに着目し，作品の良さや美しさを感じ取っている。
- 評価2 作品に対する自分のイメージを，形（線や面），色彩，構図，テクスチャーなど具体的視点を基に考え，表現している。
- 評価3 アートカードを通じて世界の芸術作品に親しみ，現物が見られる美術館への興味を高めている。

#### 4. 単元計画とイメージする「主体的な子どもの姿」 (○)

### 「目指せ！芸術作品ソムリエ！」

	1	2
課題設定・把握	◎作品鑑賞のポイントを知ろう。 色，形（線や面），光，構図，作者の思いの5ポイントを知る。	◎世界の芸術作品を鑑賞しよう。 ※美術館の模擬体験などを行い，学習への意欲を高める。 <b>ICT 活用</b>
課題追究・表現	○鑑賞のポイントを全体で確認する。 ○1枚の絵を見て，気付いたり感じたりしたことを話し合う。 ※場合によっては，グループも活用して取り組む。	○グループで自分のお気に入りの作品を見合い，表現の特徴やよさを見つけたり，話し合ったりする。 ○芸術作品をみて，感じたこと・思ったことを，5つのポイント沿って，ワークシートに記入する。 ○「アートかるた作り」に取り組み，より深く芸術作品を鑑賞する。 <b>必要感のある対話的な学びを促す</b>
振り返り・発展	○次時の学習の見通しを持つ。	○本単元の振り返りをする。

#### 5. 本時案

##### 本時の目標

- ・絵をよく見て，見つけたり感じたりしたことを話し合う中で，友だちとの見方や感じ方の違いに気づき，自分の思いをもって作品のよさや美しさを感じ取る。

	学習活動と子どもの姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
① 課題設定・把握	○地図アプリで美術館の模擬体験をする。  ○本時の活動を確認する。 <b>◎世界の芸術作品を鑑賞しよう。</b>  ○一枚の絵を学級全体で鑑賞し，感じたこと，想像したことを話し合っ，読み札を作る。	☆ICT 機器を使って成形方法を確認させる。 (手立て3)  ①課題設定・把握 <b>【図工・美術サークルの重点】</b> 五感に訴える教材→日常で使える焼き物づくり  ○鑑賞の視点 (色・形・イメージ) を示す。
② 課題追究・表現	○アートカードの中から，お気に入りの作品を1つ選び，ワークシートに見つけたり感じたりしたことを，各自で記入する。 <b>暗い色を使っていて，全体的に寂しい感じがす</b> <b>曲線で描かれていて，やわらかい感じがする。</b>  ○見つけたり感じたりしたことをグループで交流しながら，さらに作品を鑑賞し，読み札を作る。 <b>暗い雰囲気の中かで，不気味にほほえむ女性。</b>	☆作品が重なったときは，一緒に見てよいことを伝える。 ☆ワークシートを配布し，見つけたことや感じたこと，想像したことを書き込むように伝える。 ☆役割分担をして，仲間と協調しながら実土づくりに取り組ませる。(手立て2)  ☆対話しながら，作品の色，形，描いてあるものに着目させイメージを膨らませるよう助言する。

	○作った読み札を使って、「アートかるた」遊びをする。	☆読み札を読み上げ、20点の作品から合うものをグループで探す。異なるカードを各々が選んだ場合、その理由を話し合わせる。 ☆全部のグループがカードを選んだら、カード番号と作者の児童名も読み上げる。
③ ふり 返り ・ 発 展	○ふり返りシートに、今日の学習のふり返りを記入する。	<p><b>評価1</b> 形（線や面）、色彩、構図、テクスチャーに着目し、作品の良さや美しさを感じ取っている</p> <p><b>評価2</b> 作品に対する自分のイメージを、形（線や面）、色彩、構図、テクスチャーなど具体的視点を基に考え、表現している。</p> <p><b>【教師用評価基準】</b>  A: 具体的視点を基に見つけたり感じたりした作品のよさや美しさを、友だちとの見方や感じ方の違いを基にさらに捉え直している。  （自分の見方・考え方を深める）  B: 自分の選んだ作品のよさや美しさを、形（線や面）、色彩、構図、テクスチャーなど具体的視点を基に見つけたり感じたりしている。  C: 自分の選んだ作品のよさや美しさを見つけたり感じたりしている。</p> <p>☆今日の学習の楽しかったことなどを整理させるとともに、学習への取組状況もふり返らせる。（手立て1）</p>

## 6. 本時における「資質・能力」を身につけた子どもの姿（例）と具体的な場面

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等など
・形（線や面）、色彩、構図、テクスチャーなどに着目し、作品の良さや美しさを感じ取っている。	・作品に対する自分のイメージを、形（線や面）、色彩、構図、テクスチャーなど具体的視点を基に考え、表現している。 ・ワークシートを活用して表現したり、友達の意見を参考にしたりしながら、作品に対する自分の見方や考え方、感じ方を深めている。	・世界の芸術作品に対して、お互いに交流することで、感動したり、喜び合ったりしている。 ・世界の芸術作品の良さや美しさを味わおうとしている。 ・アートカードを通じて世界の美術作品に親しみ、現物が見られる美術館への興味を高めている。
具体的な場面		
◎ワークシートに作品のよさや美しさを記入している場面	◎読み札を作成したり、交流したりしている場面	◎読み札を作成したり、交流したりしている場面

